「麻績村の概況」と
「伴走型支援を受ける前の状況」

長野県　麻績（おみ）村

地域包括支援センター
関崎　豊

麻績村の概況

・面積　34.38㎢

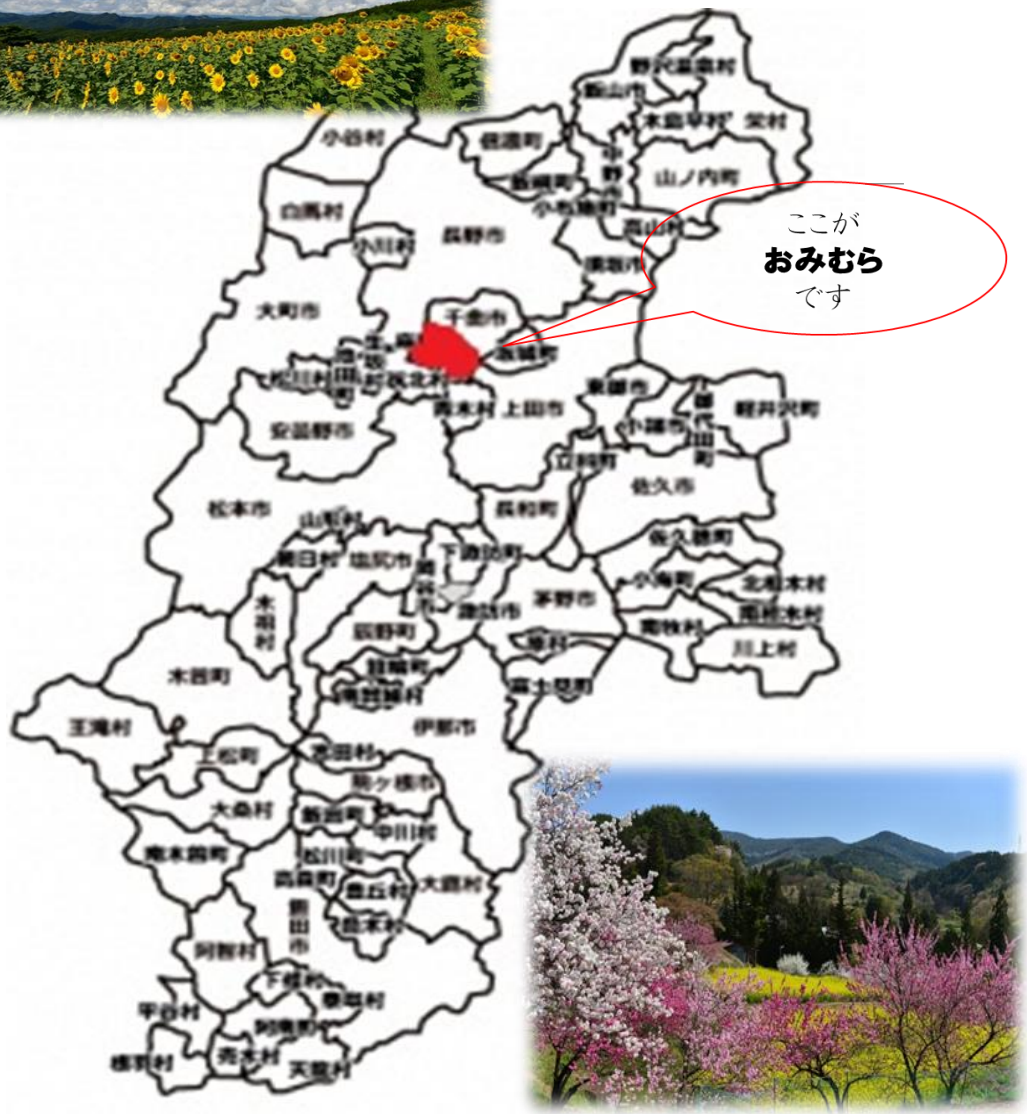
・地域包括支援センター　直営１ヶ所

・日常生活圏域　１圏域

・第７期基準額　6600円

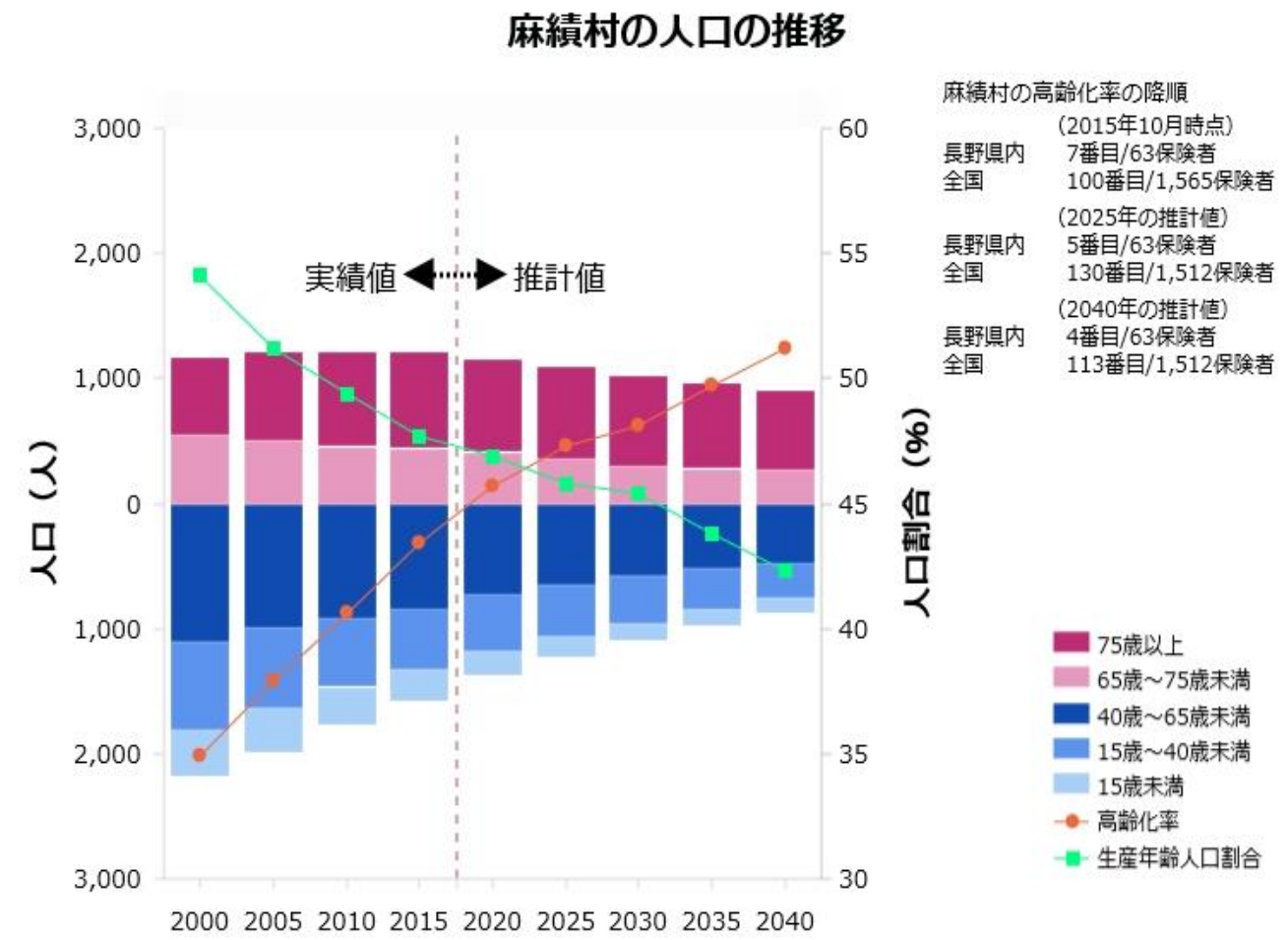
・生活支援コーディネーター

第1層　1人、第2層　1人



・地域特性など
県内の三大都市圏に囲まれる
中山間地域
稲作、傾斜地を利用した果樹栽培
（リンゴ）が盛んだが、　後継者不足深刻

～見える化システムより～



（出典）2000年～2015年まで：総務省「国勢調査」
2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）

- 人口　2723人
  （1134世帯）
- 高齢者人口　1186人
- 後期高齢者人口　757人
- 高齢化率　43.55%

2015年をピークに高齢者人口減少始まっている。

後期高齢者割合が高い

伴走的支援を受ける前の状況

１）総合事業について

- 事業開始年月　　平成29年4月

- 訪問型サービス（従前相当：　１ヵ所のみ）

- 通所型サービス
  従前相当　：　２ヵ所
  サービスA　：　２カ所（従前相当に併設）※半日
  サービスC　：　１カ所（地元医院デイケアに委託）

- その他の生活支援サービス（配食：　１カ所）

伴走的支援を受ける前の状況

２）生活支援体制整備事業

- 事業開始　平成28年2月
  （重点課題として平成27年4月より検討）
- 第1層コーディネーター　１名
  第2層コーディネーター　１名配置
- 取組内容（第１層）
  協議体会議（年３～４回）
  支えあい学習会企画運営
  資源マップの作成、更新
  情報交換など
- 取組内容（第２層）
  地区巡回の懇談会

伴走的支援を受ける前の状況

３）地域ケア会議の実施状況

- 参加者　　包括、ケアマネ、介護事業所
  他の専門職、インフォーマルな支援者の参加はなし
- 開催頻度　　概ね隔月
- 進め方　　事例検討（簡単な）、情報交換
  インフォーマルな支援者等の参加については、
  常に必要性が論じられていたが、過去からの
  流れの中で、話題になるだけで終わっていた・・

伴走的支援を受ける前の状況

4）担当者の課題認識①　～総合事業～

- 自治体独自単価の枠を使い、半日、支援2週1回など、利用者の細かなニーズへの対応は行えた。
- サービスA、C結局のところ、介護保険事業所が運営。介護現場の人員不足が想定されるが、

「住民主体のサービス」なんてできるのか・・

- 総合事業にアクセスしやすくなってしまった分、利用希望が増え、上限額をこえてしまうかも・・。

伴走的支援を受ける前の状況

４）担当者の課題認識②　～生活支援体制整備事業～

- ２年半経過したが

『何かが変わったという実感が
あまり得られない。』

新しい動きを作りたいが、職員人数に限りがあり十分に動けない。

- 協議体の運営の中で、資源マップ、啓発イベント、支えあい学習会など一定の成果は得られた。近年では議論も停滞傾向だが、縮小に踏み切れない。
- 他の事業の繰り回しで、個別課題の検討、第２層との連携については、　あまり注力できていない状況だった。